産業

米は統制の方が安心

農林大臣は、米の一部を自由販売にうつすという見解を発表して、問題をよび起こしている。

現在の食糧管理制度が改変されたり、これから大きな災害があったときのことを考えると、米の需給には楽観できないものがあり、また現在の米の統制がはずされた場合、米が投機の対象になつて、買いたたきや、買いしめが行なわれることも予想され、農家も消費者も不安となり、国民経済に及ぼす影響も大きいものがあるので、米の統制を守つてゆくことが必要であると強調されている。

一億九千万円

上げる？

南国市の葉タバコ

南国市内の葉タバコ栽培は立地に恵まれているのと肥培管理など、技術が向上したため年ごとに増収作付け面積も毎年増加し、本年は百七十ヘクタール（町）を越える。

定植は三月末から本月上旬へかけて行なわれ、活着も予想され、栽培農家は金にして一億九千万円と予想されている。

総水揚げは金にして一億九千万円と予想されている。

家は楽しい夢をえがいている。

■写真は定植風景

直きまきをテスト

稲作の労力節減に

水稲二期作地帯のなやみとなつている労力節減に、最近〝直きまき法〟がクローズアップされてきた。

南国地区営農改善会でも、このほど大篠に六アール直きまきテストに乗り出した。

以下〝直きまき〟の方法を高知新聞記事の転載により説明してみよう。

稲の個人栽培では、従来全国平均で十アール当たり十八人役の労力がかかつていた。

最近本県の平地部などでは十五人役で間に合つているところもあるが昨年本県で試作された〝直きまき栽培法〟によると、六人役前後に減らすこともできるという。

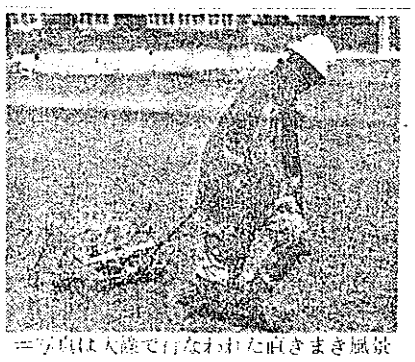
稲作専門家の中には〝十アール当たり二人役でできる米つくり〟を理想としている人もあるほどだ。

▽直きまき栽培法＝乾田式と湛水式が普及している。

水田を田植えすると同様に耕起し、かん水整地後、ちようど掲げ床苗代の種まきていどに排水（土がようかんぐらいのかたさ）し、播機で条まきする。

初期は深水にして雑草をおさえ、は種後三十日目ごろから除草剤を使つて雑草の成育を防ぐ。

中耕と草とりは一回もせず刈り取り期を迎える。従来どおり田植えしたものにくらべやや倒伏しやすいうえに、条まきしているので刈り取りがめんどうな欠点はあるが、収量は慣行法より一、二割り方多いうえ、労力が四、五割かた省ける。



■写真は大篠で行なわれた直きまき風景

京都、兵庫県ではかなり普及している。

本県では昨年野市町香我美町、窪川町などで試作されそれぞれ好結果を得ているが、ことしは県農試も本格的に試験栽培に乗り出す計画で県の関係者は「来年あたりからボツボツ普及段階にはいるだろう」とみている。

それをたづねて ②

愛しあえる汚れなき霊峰

峰山の景観

春とはいえ、まだ吹く風のうそ寒くどんよりとした三月のある日、ヘボツコプン屋の一行は、市の西南端十市にそそりたつ八葉山（峰山）を、そそくさと探索してみた。

四国霊場三十二番の札所、八葉山浄瑠璃寺のある峰山の表参道は、札場より西へ約三丁のところにある。

峻嶮な山肌を縫うつづら折れの急坂な道には、ガラガラ石が多い。道の左手頂上近くまでの立木が切られ、赤い山肌を見せて山容をそこねている。

七合目近くで南東に伸びる稜線に出る。これにしたがつてゆけば、峯山随一の眺望といわれる月見ヵ崎がある。

両翼を海洋くひろげた室戸星崎の両端まで続ける岬が、それぞれ遥かに重なりあつて伸び、広漠たる大洋の彼方より寄せくる黒汐の紺、手結岬より龍頭崎を結ぶ帯一筋の白い波頭は、常緑の松林に映えて美しい。浜辺せましと海にせまり営々といとなまれる数多いビニールハウスは、眼下一面にひろがり春の陽光に白く輝いている。

しかし、この月見ヵ崎の景観は、立木にさえぎられ視野が悪く、昔日の面影のないのは残念だ。

■怒る仁王にむかえられ■

つづら道のつきるところに胸突く石段が一直線に現われ、楼門が見える、これが仁王門である。

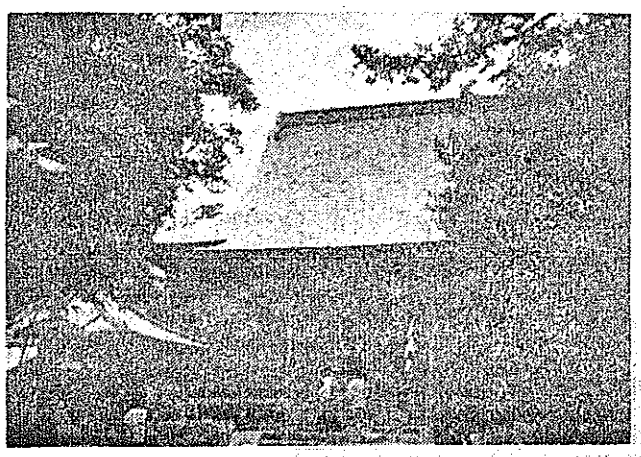
この仁王門は、旧国宝で現在重要文化財に指定されている。

この仁王門の金網のおくに運慶、または定明の作といわれる国宝金剛力士の一双がある。

これは鎌倉時代の作品で、身の丈四尺七寸三分、憤怒の形相ものすごく、活然と見開らいた眼光は俗人を射すくめるには充分である。

現在、土佐に残されている重なものである。

この種の仁王は少なく、貴



峰寺の本堂

山頂、本堂その他の堂宇がある。

峯寺は、新義真言宗豊山派に属し、千百年前の神亀年間に行基菩薩が開山し、本尊は十一面観世音菩薩で、別尊の十一面観世音は、天明年間に大和の長谷寺よりという、そこで人よんで船魂の観音ともいわれている。

山頂にも奇岩ありてそこにうう。

山頂の眺めもまたたのしいものだ。

〝伝説ありて〟

古刹につきものの伝説は、この峯寺にもある。

峯山の西方、石土神社に住い池のヌといわれた大蛇がいて、通行人や、附近の人々に危害を加えていたがある日、峯山を登り寺の本堂に入り、本尊のかたはらにある打油をなめることを覚え、その後たびたび寺に忍び込み、いたずらするので観音大いに怒り、ある夜、蛇の登つてくるところを山門近くの岩を倒し、これを追い放つたという。

また山頂の岩にくぼみがあり、年中水の切れたことがなく、汐の満干によりその水が増減するという話などが伝えられている。

寺に享保二十年の古文書があつて、それにこもごも書かれているが、凡人の我々には読みとることのむつかしいのは残念だ。

〝脚光をあびて〟

この寺の住職川口氏の話によれば、五台山、桂浜など見あきた観光地をさけ、汚れない処女地の観光をのぞむものが次第に増し、観光バスのこない日はないという。

また観光地として県の指定もこのほどおり、これから新しい観光地にするべく計画をたてている。

まづドライブウエーを山頂近くまでつけ、現在民有地である月見ヵ崎附近を整備し展望の場とするほか、さくら、などの植樹を行うなど、たのしい景勝の地にしたいという。

この峰山は、ハイキングコースとしての選定もうけており、手軽な家族づれのハイクにはもつてこいの地である。

〝俗界をはなれて〟

この峰山は実に静かなたずまいである、針のように神経をとがらしても、風の音のほかは聞かれず、精神を統一するには実によい。

僧房は本堂のすぐ下、仁王門を右手に折れたところにある。

僧房の庭は自然そのもので、わび、さびなど実に気持がよい。石段の方では倒れかかつてくる岩石も、ここでは一つの大きな岩となり前方になだらかな線を描いて傾いている。ものの表裏のちがいというものを如実に見せられた。

また岩の色沢も全然違つた感じとなり、面白い趣がある。

寺全体も広くなんとなく古めかしきなかに、枯淡な味がある。夏場には水があるというが、現在水の涸れているかなりの池がある。

俗界を遠くはなれたこの高峻な山境で、心静かに禅をくむのも実にたのしいものだろう。

目覚れに一夜の宿を求めたお辺路の、読経の声が、隣室にもれてくるころ、くらやみの寺を辞し、またもとの俗界にかえるべく手さぐり、足さぐりに足をはこびて、下界にまたたく光をみつめつつ山を下つた。

法の山

日暮れ静かに　落椿

八葉山の名は、八葉の白レンに山容が似ているこころからと付けられしものという。

梨の花が漸くつぼみを割ろうとしていた。私は梨園の陽溜りでその青年と話をした。A君は（仮りにA君としておこう）私しの友人の一人息子だが、ある日私しはその友人から思いがけない依頼をうけた。A君は高校をでるとすぐ家の手伝いを始めたので、近頃感心な青年だと、私しもひそかにその将来を期待していたのだが、Aが四月から勤めにでてしまえば、私しの息子の心境にも変化が起こること請合いだからである。

あんなに熱心にやつていたのに、どうして急に果樹園を見捨てる気になつたんだね。

見捨てるという訳ではありませんが、ただ当分は勤めにでてゆく方がよいと考えただけです。

当分というと百姓仕事がまるさり嫌になつた訳ではないんだね。

いづれぼくが百姓をやらなければ、やり手がないことくらいぼくだつて自覚していますし。それにぼくは果樹園の仕事なんかむしろ好きです。

というとおやじさんと意見の衝突でもあつたのかね。

いや意見の合わないことはありますが、正面から喧嘩のできるほどな自信はまだぼくにはありません。父は新植の果樹園に対しても自分の夢を実現させたいらしいですが、ぼくは未熟でも父よりはもつと新鮮な夢をもつているつもりです。しかしそんなことは話合えば分ることだしそれが直接の動機ではありません。おじさんは恋愛をした経験がありますか？

いきなりそう云つた青年の唇に仄かな笑みの微笑が泛んだのを私しは見た。あると思つておいて貰おうか私しはゆつくり云つた。それから急にどうして君が会社勤めをする気になつたかわしには分るような気がするよ。君は好きな人ができたんだろう。そして君のその心境の変化には、彼女の存在が大きく作用していると考えられるのだが、彼女は百姓仕事が嫌というのかい。

それでは困るが彼女ができたことは事実です。でも彼女も百姓の娘だしいざとなれば、云えば泥臭いことを嫌がる女ではありません。

それを聞いて安心したよ彼女はいま勤めにでているのかね。

去年からでています。

そうか、それで二人が勧めにでて二度と来たい青春を大いに楽しもうという訳だね。

いや、とA君は経つたように云つた。ぼく達そんな浮いた気持ではありません

そうか、これはわしの失言だつたらしい。取消すよむかしは嫁れた相手にならば女は手弱さげてもついてきたものだがね。

ぼくは将来のるべきものだと思います生活の設計は二人で立て。ぼくらは来年は結婚します。

そうか、それで結婚したら。

当分親達とは別居したいと考えています。ぼくの家は父母も祖父母も健在だしそんな複雑な家族構成の中へ彼女を連れてきて苦しめたくはないのです。結婚の条件としてぼくが跡取り息子だつたことが彼女には気に入らなかつたのです。いまのぼくらには財産よりも自由に伸びのびと生きてゆける環境が欲しいのです。分るよ。

青年は青年らしく伸びてゆけず、老人は老人らしく円熟してゆけない、これがいまの農村の実態だ。それは戦後の教育の傾向によるか、それとも若い世代の真の自覚によるか、とにかく吉来美徳とされた農民生活の型は遠からず崩されるであろうし、また崩さなければ農村の嫁のキヤンはいつまでもつづくであろうことが分つたよ。仲人はわしが引受けたからね。しつかりやることだ。

十市梨夫

ある青年と語る

住民登録の

転入（転居）届は

14日以内に

必ず届出を……